

初対面会話における韓国人日本語学習者の 自己開示の研究

全鍾美

要 旨

本研究では、日本語母語話者同士、韓国語母語話者同士の初対面会話および、韓国人日本語学習者の接触場面における初対面会話にみられる自己開示の出現傾向を分析した。その結果、日本語母語話者に比べ、韓国語母語話者がより多く自己開示を行った。また、日本語母語話者と韓国人日本語学習者の初対面会話では、韓国人日本語学習者は日本語母語話者より多く自己開示を行う傾向があった。自己開示項目を比較した結果、身の上関連の自己開示を行うという共通点はあったが、その他には開示項目が異なる場合もみられた。日本語母語話者と韓国語母語話者は、各々の社会化¹⁾の結果としての内面化された規範が異なるため、自己開示に相違があることがうかがわれる。韓国人日本語学習者に韓国語母語話者と類似した自己開示を行う傾向がみられたことから、初対面の日本人相手に自己開示を行う際にも韓国の社会文化的規範を持ち込む傾向があることが示唆された。

キーワード：初対面会話 自己開示 母語場面 接触場面
規範・行動様式

1. はじめに

人々は日常の生活においてあまり深く意識することなくコミュニケーションを行っているが、コミュニケーションを行うことで人間関係が形成されていく。その人間関係の形成における出発点となるのが初対面の段階である。初対面では、相手に関して何の情報も持ち合わせていない状況であるため、相手への不安と距離を感じる。その気まずさをやわらげるために自己開示(self-disclosure)²⁾を行う。自己開示とは、自ら自分自身の情報を他者に対して示していくことである。自己開示を行うことによって、お互いについて徐々に認識するようになり、2人の距離が

縮まる。こういったことから、初対面の状況で自己開示を行うことは、人間関係の形成において重要な意味を持つ。しかし、不適切な自己開示を行うことで、否定的な印象を形成させてしまい、場合によっては人間関係の発展を妨げる原因となることもある。異文化接触においては、お互いの社会文化的知識が異なる。そのため、自文化の自己開示の規範が相手文化には通用しない場合も多く、相手とのコミュニケーションを行う際に、摩擦や誤解が発生する可能性が考えられる。文化的背景を異にする者同士において、人間関係の形成の出発点である初対面における自己開示の問題は、対人関係の発展に影響を与えるため、重要であるといえる。

既存の初対面会話の自己開示の研究は、社会心理学とコミュニケーション学の分野では盛んになされており、人間関係と自己開示の関連性が検討されてきた(Berger et al.,1976 ; 西田,1998 など)。しかし、その多くが質問紙による意識調査であり、実際の会話に出現する自己開示の特徴を研究対象としたものは非常に少ない。日本語教育の分野では、自己開示と密接な関係にあるといわれてきた話題選択に焦点を当てた研究が増えている。日本語母語話者を対象とした研究としては三牧(1999)が、日本語母語話者と韓国語母語話者を対象とした研究としては奥山(2005)が挙げられる。しかし、韓国人日本語学習者を調査対象とした研究は見当たらない。

以上のことに基づき、本研究では日本語母語話者同士と韓国語母語話者同士の初対面会話にみられる自己開示の出現傾向を比較した上で、韓国人日本語学習者の自己開示の特徴や母国の文化の影響を明らかにすることを目的とする。研究対象である自己開示を、従来の研究における定義を踏まえて「他者に、自己に関する情報を、言語を介して伝達する行為」と定義する。

2. 研究方法

2.1 データの収集法と調査対象

本研究では、調査対象者の実際のインターアクションを録音した会話データを分析資料とする。初対面であること、同世代の同性同士の組み合わせであることなどの統制や録音をする必要性から、実験的に場面を設定する。会話データによる研究では、相手とのインターアクションが観察でき、アンケートや談話完成テストなどに比べ、現実に近いデータの分析が可能となる。したがって、本研究では実際のコミュニケーション

ンに出現する自己開示の実態を調査するため、会話を収集・分析する方法を用いる。調査対象者は 20 代の女性の大学生と大学院生に限定し、日本語母語話者(以下 JJ)の 8 組(2 人 1 組)の 16 名,韓国語母語話者(以下 KK)の 8 組(2 人 1 組)の 16 名と,日本語母語話者(以下 JJk)と韓国人日本語学習者(以下 KJ)の 8 組(JJk 1 人と KJ 1 人で 1 組)の 16 名の,合計 24 組の 48 名である。本研究では,日本語母語話者間と韓国語母語話者間の会話を母語場面,日本語母語話者と韓国人日本語学習者の会話を接触場面とする。なお,調査対象者の個人の表記においては数字をつける。全ての組は同年齢同士となるようにした(平均年齢:JJ-22.3 歳, KK-23.6 歳, JJk-21.8 歳, KJ-22.1 歳)。JJ, KK, JJk の場合,海外の滞在年数が短期間かあるいは滞在経験を有しない人を対象とした。また, KJ は, 上級レベルの来日 1 年未満(平均日本滞在年数 4 ヶ月)の人を対象とした。調査は 2007 年 3 月から 9 月にかけて,名古屋と釜山で行った。

2.2 調査の手順

調査を行う前に全調査対象者に録音の許可を得た。調査の内容に関する具体的な説明は行わなかった。調査対象者は調査場所ではじめて顔を合わせるようにした。会話のテーマは自由で 30 分間会話をしてもらった。調査終了後すぐに個人別に約 15 分間のフォローアップ・インタビューを実施し調査参加の感想・自己開示に対する意識などを聞いた³⁾。全ての会話及びフォローアップ・インタビューの文字化を行った⁴⁾。

3. 分析方法

3.1 自己開示の範囲と単位の認定

自己開示の研究における「自己」の概念は定まっておらず,取り扱われる「自己」の範囲は研究分野によって様々である。榎本(1997: iii)のように,自分自身や自分自身の経験に直接言及する言表,あるいは自分自身がにじみ出るような発言が自己開示に相当するものであり,単に外的な事象についての話や第三者的な言表は自己開示に含まれないとする解釈もみられる。

本研究で取り扱う自己開示の定義における「自己」については,①自分自身に関すること(例:私は 21 才です。) ②自分と関連している者と関係すること(例:彼と付き合ってから 3 ヶ月経ちました。) ③所属の一員としての自分のこと(例:うちの学科は団結力があんまりなくて。)のような範囲認定を行う。

自己開示の単位の認定においては、基本的に1つの発話文を1つの自己開示として捉えるが、1つの発話文が複数の内容で構成されている場合、その内容ごとに区切り、それぞれの内容を自己開示として計算する。
 単位例)・私は経済学部の / 4年の / MMと申します。

・私実は中高の一種の免許を持ってるんですけど / その時に教えに行っただけです。

3.2 自己開示の内容のカテゴリー項目の分類

自己開示の内容の検討のため、会話に出現した自己開示の全ての内容を取り上げ、76からなる自己開示のカテゴリー項目を作成した⁵⁾。〈会話例1〉をその例として挙げる。

<会話例1 JJ13-JJ14>
 01 JJ14: 運動はしないんですか？
 →02 JJ13: 運動はね、①私ラケットの競技が好きで、テニスとか卓球とか好きなんだけど / ②それって一人でできないんじゃないですか。だから③あんまり運動、バイトが運動って感じです。
 / ④イタリアンでホールやってて。

〈会話例1〉では、JJ13は好きなスポーツ(下線①)、スポーツができない理由(下線②)、アルバイトの経験(下線③)、アルバイトの種類(下線④)について自己開示を行っている。ここで出現した自己開示の内容は76のカテゴリー項目のうち2つの項目にあてはまる。表1にそれを示す。

表1 自己開示の内容のカテゴリー項目

| カテゴリー項目 | 会話に出現した自己開示の内容 |
|---------|-------------------------------------|
| スポーツ | 好きなスポーツ(02の下線①)、スポーツができない理由(02の下線②) |
| アルバイト | アルバイトの経験(02の下線③)、アルバイトの種類(02の下線④) |

自己開示の分類は筆者と協力者1名が独立に行い、一致率を算出した。平均一致率は88.5%であった。一致しない部分は協力者と話し合い、分類を決定した。

4. 結果と考察

4.1 母語場面にみられる自己開示の出現と内容

4.1.1 自己開示の全体的出現傾向

表2 母語場面における自己開示の出現頻度

| JJ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 合計 | 平均 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-------|
| 頻度 | 20 | 32 | 50 | 40 | 39 | 24 | 37 | 39 | 28 | 48 | 31 | 38 | 41 | 38 | 53 | 36 | 594 | 37.12 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|-------|
| KK | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 合計 | 平均 |
| 頻度 | 81 | 74 | 87 | 60 | 59 | 51 | 85 | 62 | 59 | 53 | 51 | 51 | 92 | 42 | 51 | 54 | 1012 | 63.25 |

表2は、母語場面における自己開示の出現頻度を示したものである。表2にみられるように、自己開示の全体的な出現傾向としては、KKの自己開示の出現頻度(1012回)がJJ(594回)に比べ、2倍に近い値であった。

4.1.2 自己開示の内容的特徴

表3に会話のなかに出現した自己開示の項目の順位をまとめた。自己開示が調査対象者16人全員の会話に出現した場合の出現頻度を16、出現率を100%として表示した。

表3 母語場面にみられる自己開示項目の出現頻度と出現率

| 頻度(%) | JJ(16名) | KK(16名) |
|-----------|--------------------------------------|--|
| 16(100%) | 所属 | 所属 居住地 |
| 15(93.8%) | — | 年齢 |
| 14(87.5%) | — | 調査 |
| 13(81.3%) | 名前 学年 居住地 | 学年 生活 |
| 12(75.9%) | 旅行 | 勉強 食事 進路 |
| 11(68.8%) | — | — |
| 10(62.5%) | 勉強 出身地 | 名前 |
| 9(56.3%) | 授業 | 休学 単位 大学生活 |
| 8(50.0%) | 大学名 通学 出身校 サークル 行事 | 授業 能力 学科特徴 性格 恋人 出身校 就職 |
| 7(43.8%) | 能力 調査 | 通学 卒業 |
| 6(37.5%) | 留学生 知り合い 進学 | アルバイト 対人関係 日程 行事 |
| 5(31.3%) | 学科特徴 生活 興味分野 | 適性 知り合い きょうだい 進学 |
| 4(25.0%) | 留学 大学生活 きょうだい 苦手分野 進路 アルバイト | 浪人 キャンパス 留学生 家族構成 身体 サークル 資格証 旅行 お酒 |
| 3(18.8%) | 性格 免許 卒業 就職 お酒 | 大学名 出身地 金銭 |
| 2(12.5%) | 適性 教員 方言 金銭 資格証 買い物 話し方 食事 スポーツ | 留学 差し入れ 血液型 宗教 免許 休日 今後 苦手分野 興味分野 |
| 1(6.3%) | 浪人 差し入れ 年齢 家族構成 休日 日程 対人関係 食べ物 名刺 | 映画 結婚 食べ物 話し方 出来事 |

表3からわかるように、JJ、KKともに多く出現した自己開示の項目は「所属」「学年」などの学生生活に関連した項目である。これは、調査対象者全員が大学(院)生であることから、会話の相手と共有できる背

景知識を会話に持ち込むことで、初対面会話を進行させる役割を果たしているといえる。

その他、JJには「出身地」「旅行」「サークル」「行事」などの項目がKKより多く出現し、KKには「年齢」「食事」「進路」「大学生活」「性格」「対人関係」「休学」「恋人」などの項目がJJより多く出現しており、職業(学生)関連の項目以外では、初対面相手に行く自己開示の内容に日韓の相違がみられた。この結果から、学生の持つ関心事と初対面で取り上げても良いと思われる話題が、日韓で異なることが予想される。

4.2 接触場面にみられる自己開示の出現と内容

4.2.1 自己開示の全体的出現傾向

表4 接触場面における自己開示の出現頻度

| JJk | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 合計 | 平均 |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|
| 頻度 | 27 | 32 | 40 | 36 | 14 | 24 | 18 | 16 | 207 | 25.9 |
| KJ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 合計 | 平均 |
| 頻度 | 45 | 29 | 60 | 35 | 50 | 37 | 32 | 52 | 340 | 42.5 |

表4は、JJkとKJにみられる自己開示の出現頻度を比較したものである。自己開示の全体的な出現傾向としては、JJkの出現頻度が207回でKJの出現頻度が340回と、KJの方がJJkより自己開示の回数が約1.5倍多い。

4.2.2 自己開示の内容的特徴

表5では接触場面における自己開示の出現の順位を示した。自己開示が調査対象者8人全員の会話に出現した場合の出現頻度を8、出現率を100%として表示した。

表5 接触場面にみられる自己開示項目の出現頻度と出現率

| 頻度(%) | JJk(8名) | KJ(8名) |
|----------|---------------------------------|---|
| 8(100%) | 所属 | 所属 |
| 7(87.5%) | 名前 学年 | 名前 |
| 6(75.0%) | — | 学年 能力 日本の生活 |
| 5(62.5%) | 勉強 | 身分 授業 勉強 居住地 滞在 日本語学習 日本語能力 |
| 4(50.0%) | 授業 | 知り合い 来日 |
| 3(37.5%) | 大学名 調査 知り合い 通学 サークル 興味分野 食べ物 | 大学名 調査 身体 出身地 生活 進路 食べ物 日韓の差 サブカルチャー |
| 2(25.0%) | 身分 能力 留学 行事 年齢 出身地 生活 | 学科特徴 年齢 性格 アルバイト 旅行 映画 |

| | | |
|----------|---|---|
| | アルバイト 映画 趣味 進学 進路 結婚 サブカルチャー | 趣味 芸能人 結婚 お酒 |
| 1(12.5%) | 単位 大学生活 学科特徴 性格 差し入れ 恋人 血液型 宗教 仕事 資格証 得意分野 旅行 買い物 芸能人 休日 卒業 お酒 今後 日程 キャンパス 来日 日韓の差 | 単位 休学 留学 教員 行事 誕生日 血液型 宗教 方言 通学 サークル 仕事 得意分野 苦手分野 興味分野 買い物 出来事 理想のタ イプ 休日 進学 卒業 就職活動 天気 日程 |

JJk, KJの全員が行った自己開示は「所属」に関する項目で、これは母語場面の結果と一致する。その他「名前」「学年」などが多く選択されていることから、初対面相手との会話では、情報交換の第一歩として、現在の身分における基本情報を提示するような自己開示を日韓ともに行う傾向が顕著であることがわかる。

KJの自己開示の項目にみられる特徴は、留学関連の項目が多いことである。日本の滞在年数が僅か数ヶ月であるKJが、初対面の日本人に対して自分のことを最も開示しやすく、また、会話の相手から気軽に質問されやすい項目として、留学に関するものが取り上げられているのは当然なことであろう。留学関連以外の項目の出現には、著しい差はみられない。但し、「能力」(KJ4:日本に来たのに英語しゃべれなくて、なんかストレスになって。)に関する項目、「身体」(KJ8:最近8キロ太っちゃって。)に関する項目ではKJの出現数がJJkよりやや多いことがわかる。

4.3 接触場面における自己開示の特徴

表3と表5を比較した結果、KKとKJに出現した自己開示の項目に相違がみられ、場面によって開示の内容が異なることがわかった。接触場面において自分の言語を使用する参加者は、意識的に相互理解を確立する責任があることを当然に思うという指摘がある(ファン2006:135)。

<フォローアップ・インタビュー①:会話を進めていくことについて-接触場面>(資料のQ4,Q5を参照)

JJk8:相手が外国人なので、自分が会話をリードしていかなきゃということは少し思った。また文化が違うので、文化の違いによって失礼にならないように話題の選択に気をつけた。

KJ8:相手が会話を進めていくなかで話す内容について気を使うような気がした。話題が切れないようにうまく誘導してくれた。

上記の<フォローアップ・インタビュー①>⁶⁾のように、本研究の調査の際にも、JJkが会話をリードする役割を引き受け、KJはJJkにより、会話をリードされる役割を受け持つ傾向にあったことがわかった。調査対象者が日本語上級学習者とはいえ、外国語で初対面の相手と会話を行うことは、日本語母語話者が日本語で行うより労力・処理容量をよ

り多く必要とする(西郡, 1997)。また, 日本語母語話者は, 日本語学習者が母語話者と同程度の処理容量がないことに気づき, 母語話者である自分らが日本語学習者をリードしなければならないと認識するようになることが考えられる。本研究においても, KJ が Jjk に会話の展開を任せる傾向があったため, 初対面会話で取り上げられる自己開示の内容が Jjk によってコントロールされる可能性も排除できないことが示唆された。

4.4 韓国人日本語学習者の自己開示にみられる母語の影響

4.3 では接触場面の特徴と自己開示の出現との関連について考察した。接触場面では, 会話の展開が母語話者にコントロールされる場合があるため, 学習者の言語行動が明確にされないこともある。しかし, Jjk との会話に際して, KJ の持っている特徴が全く現れないわけではない。そこで本節では, 4.1, 4.2 で行った自己開示の出現頻度と割合の比較の他に, KJ が自己開示の際に用いた言語表現のなかで, 母語である韓国語の影響によるものであると思われる部分を取り上げ, 考察を行う。さらに, KJ が自己開示を行う際にみられる規範・行動様式が, 韓国の社会文化によるものであるかについて検討する。

4.4.1 言語表現にみられる母語の影響

次の2つの会話例は, 感情に言及した自己開示が出現したものである。<会話例2>にみられるように, KK4 の「맨날 바다 지겹다. 진짜 지겹다. 엠티 송정으로 가는 것도 싫어요. (いつも海, もうあきた。本当あきた。旅行でソンジョンに行くのもいやです。)(01)」や KK3 の「어-진짜 싫더라. (うーん, 本当にいや。)(02)」のような感情をはっきりと表す自己開示が KK に多くみられた。このような特徴は<会話例3>の KJ8 の「でもあんまり好きじゃなかったから, 漢字を覚えるのがいやで(02)」のように, KJ の自己開示にも多く出現した。一方, JJ と Jjk の場合はこのような言語表現を自己開示の際に用いることはほとんどみられなかった。

<会話例 2 KK3-KK4>

01 KK4: 옛날에 영도에 살다가 해운대로 이사 갔거든요. 해운대에서 이사해서 또 광안리로
→ 갔어요. 항상 바닷가 쪽. 맨날 바다 지겹다. 진짜 지겹다. /엘티 송점으로 가는 것도 싫어요.
→02 KK3: 어-진짜 싫더라. / 너무 맨날 바다, 살지도 않는데도 너무 많이 가니까.

日本語訳

01 KK4: 昔ヨンドに住んでヘウンデに引っ越したんです。ヘウンデから引っ越してまたクァンアン
→ 리。いつも海の近く。いつも海、もうあきた。本当あきた。 / 旅行でソンジョンに行くのもいや
です。

→02 KK3: うーん、本当にいや。 / いつも海、住んでいるわけじゃなくてもあまりにも何回も行くから。

<会話例 3 JJk8-KJ8>

01 JJk8: けっこうじゃ、前から日本語。
→02 KJ8: ううん、一応高校のときに第二外国語が日本語。でもあんまり好きじゃなかったから、
/ 漢字を覚えるのがいやで、それであんまり成績よくなかったけど。

以下は、自己開示の際に、複数の情報が1回の発話に出現した会話例である。

<会話例 4>では KK6 の質問「현역이세요?(現役ですか?)(01)」に対し、KK5 が「아니 그러니까 재수하고 와서 한, 아무튼 일 년 아니 반 년 휴학하고 그냥 4 학년 2 학기인 04 죠. (いえ, だから浪人した後とにかく1年, いや, 半年休学して今は4年の2学期の2004年度入学生です。)(02)」と、要求された以上の情報についても自己開示を行っている。<会話例 5>では, JJk3 の質問「夢はあるんですか? (01)」の答として, 将来の夢とその夢に対して抱えている悩みと不安な心境を開示しており, その上, 不安な心境における状況について, 滞在期間, 家族に関するものを取り上げ, 自己開示している。このように, 1回の発話において自己に関する情報を複数含む自己開示を行う例は JJ と JJk にはほとんどみられなかったのに対し, KK と KJ の発話には多く観察された。

<会話例 4 KK5-KK6>

日本語訳

| | |
|--|---|
| 01 KK6: 04 세요? 현역이세요? | 01 KK6: 2004 入学なんですか? 現役ですか? |
| →02 KK5: <u>아니 그러니까 재수하고 와서</u> 【浪人】 / | → 02 KK5: <u>いえ, だから浪人した後</u> 【浪人】 / とに |
| <u>한, 아무튼 일 년 아니 반 년 휴학하고</u> 【休学】 | <u>かく1年, いや, 半年休学して</u> 【休学】 / 今は |
| <u>/그냥 4 학년 2 학기인 04 죠. 【学年】</u> | <u>4年の2学期 2004年度入学生です。 【学年】</u> |

<会話例 5 JJk3-KJ3>

01 JJk3: 夢はあるんですか？

02 KJ3: 私の夢ですか？夢でしたらやっぱりコラムとか書く人。なんか、記事。なんか雑誌とかの。

はないけど、そんなこと、その方面、なんか##。

03 JJk3: イラストとかで描かないですか？

04 KJ3: イラスト、絵描く。それは違って書くのが好きです、なんか。

05 JJk3: 小説とかエッセイとか。

→06 KJ3: うん、それがいいんで。エッセイとか、文章を書くそれがいいんで。【進路】/

行きたいんですけど、まだ何も決まってない。【進路】/それが今の私です。【進路】/

帰国を3ヶ月くらい残して。【滞在】/お母さんとか、おじい、うん、お父さんから電話

かかってきたら、帰ってきて何をやる、まだわからないんだけど。【進路】/どうしよう。

初対面の相手に対し、たくさんの情報を一気に開示することは、相手への負担を高くする可能性がある。また、開示を受ける側は、求めてもいない相手の情報を聞かされることによって、相手の開示に応じて自分も開示しなければならないという、自己開示の強要を感じることも考え得るため、場合によっては、対人関係の発展に支障となる恐れがある。

以上、初対面の相手に自己開示を行う際、KJ が用いた言語表現のなかには、母語による影響であると思われる箇所が数多くみられた。このことから、KJ の自己開示には、自己開示を行う回数のみならず、用いる言語表現においてもKK と類似しているといえる。

4.4.2 自己開示にみられる規範・行動様式の相違

次に、初対面会話で自己開示を行うことにおける規範・行動様式と4.4.1 で検討した言語表現との関連について考察し、KJ の自己開示の特徴の原因について考察する。

<フォローアップ・インタビュー②: 初対面場面における自己開示について> (資料の Q1, Q2 を参照)

JJ10: 個人的なこと、家族のことなど自分と関連したことについては言わなかった。初対面だからということもあったかもしれないが普段も自分から話すことはあまりない。

KK7: 初対面でも日常の会話でも自分のことについてよく話す。そうすることで相手も私のことについて興味を持つようになって、自分の印象が相手に強く残る。

KJ1: 初対面だからといって話題に気をつけたりしたことはない。日本人とも友達と話すのと同じように話す。自分に関することもよく話す方だ。

<フォローアップ・インタビュー②> から、JJ と KK の初対面相手に対する自己開示には相違があることがわかる。日本と韓国は社会文化的背景が異なっており、言語文化の慣習に差がある。日本語母語話者は初対面という場面に対する意識が強く、「疎」である相手との距離を一定

に保ったまま、両者の距離にふさわしいことを話題に取り上げるため、初対面の相手に自己開示を行うことが少ない。一方、韓国語母語話者は初対面であることに対する意識の働きが少ない。さらに、相手との関係が「疎」であることについて特に意識せず、相手との距離を縮めるよう、活発に自己開示を行うため、初対面からお互いに関することについても話題として取り上げるという言語行動をとる。渡辺・鈴木（1984：177）は、韓国人は対人間の距離を縮めるためには、相手に対する自分の本当の気持ちや利害関係は考えず、相手と人間として親しく接するのが礼儀と心得ており、それには相手に対し十分な関心を示し、いろいろ情報を聞き出すと同時に、自分についても十分語ると述べている。そして、日本人は初対面の相手に一定の距離を設けて接するため、決して深入りせず適当にその場を摩擦なく過ごせばいいとしている。日本的な思いやりは常に相手との一定の距離を設け、その領域を侵さないことにあると論じている。

また、上記の〈フォローアップ・インタビュー②〉の内容から、KJは日本語母語話者と初対面で会話を行う際に、会話の相手や話題の選択に関してあまり意識せずに話を進めていく傾向があり、KJに存在している初対面場面に対する規範・行動様式と、自己開示を行うことに対する規範・行動様式がKKと共通するものであることが確認された。この結果から、初対面の相手に対し、KJは韓国の社会文化の規範・行動様式に基づいて自己開示を行う傾向があると考えられる。

4.5 韓国人日本語学習者の対人関係への認識

最後に、初対面の相互作用における差について考察する。

〈フォローアップ・インタビュー③：日本語母語話者との初対面会話について〉（資料のQ3, Q6を参照）

KJ2:韓国人同士は初対面だとしてもプライベートなことについて話す日本人には話せない。

韓国人は初めて会っても親しくなって連絡先を交換するが日本人はそういうことがない。

KJ6:彼氏のことについて聞いてみたかったが、日本人にプライバシーだと思われそうだったので聞かなかった。韓国人には平気で聞くのに、そのようなところが違うと思う。

ほとんどのKJが日本語母語話者との初対面会話のやりとりを経験しており、そこから日本と韓国の初対面の相互作用に相違があることについて認識していた。しかし、その相違の原因となるものに対する知識が不足しているため、両者の言語行動を理解するところまでには至っていないことがフォローアップ・インタビューでわかった。

日本語母語話者においては、初対面からいきなり相手との距離が急速に縮まり、友人関係になるということは多くないだろう。しかし、韓国

語母語話者においては、初対面の相手に親密さを強く感じ、まるで旧知の友のような話し方をする場合も少なくない。日本人との初対面会話において、当たり障りのないことを話題としながら相手にある程度距離を保った接し方をされたとき、韓国語母語話者は、もの足りなさを感じかねないと考えられる。そして、相手とより親しくなりたいという気持ちを持ち、初対面の日本人に自分のことを一生懸命語る行為が、逆に日本人に自己の領域に踏み入られたと受け止められた場合には、相手と良好な対人関係を築くために行った言動が、むしろ気分を害する行為と捉えられてしまう恐れもあるだろう。任（2006：9）は、異文化間コミュニケーションにおける誤解のほとんどは、相手のコミュニケーション・スタイルを自文化のそれに当てはめて、自分の尺度で相手を解釈しようとするところから生じると指摘している。そういった、言語行動による問題の発生を予防するためには、お互いの社会文化の規範による相違を認識し、誤解の仕組みを解明することが必要であろう。初対面場面における自己開示の問題もこれと同様で、初対面場面において、日韓の対人関係のとり方の相違に気づき、そのなかで行われる自己開示のプロセスがどのように異なっているかについて理解しなければならない。韓国人日本語学習者にとっては、両国の初対面における社会文化的規範を認識し、摩擦や誤解を防ぐようにすることが望ましいであろう。

5. おわりに

本研究では JJ と KK の各々の母語場面及び Jjk と KJ の接触場面における自己開示に関して以下のことが明らかになった。

①母語場面では、JJ に比べ、KK のほうが自己開示を多く行った。また接触場面では、Jjk より KJ が自己開示を多く行ったことが確認された。②母語場面、接触場面とも、身の上関連と学生生活関連の自己開示が多く出現した。また、母語場面では、JJ・KK のいずれか一方にのみ、接触場面では、Jjk・KJ のいずれか一方にのみ出現した自己開示の項目もみられ、初対面で開示する項目が言語文化によって異なる傾向があった。③接触場面では、Jjk によって会話の進行がコントロールされる傾向がみられたが、自己開示の際に KJ の用いた言語表現の中には、韓国の母語文化の影響によるものであると思われる例が多く観察された。また、初対面場面の自己開示にみられる規範・行動様式においても、KK と KJ が同様であることが明らかにされた。このことから、KJ が初対面の日本語母語話者と会話を行う際に、韓国の社会化の結果としての内面

化された規範に基づいて行動し、母語文化の影響とみられる表現を用いる傾向があることが示唆された。

本研究は、調査対象者を募り、初対面の機会を設け、会話を行わせたものであるため、日常遭遇する初対面の状況とはやや異なる点もあることが考えられる。しかし、調査対象者の発話を通してより自然な会話場面において出現する自己開示にきわめて近いものが観察できるものと思われる。

本研究で行った分析の結果、日本語母語話者同士、韓国語母語話者同士、また韓国人日本語学習者にみられた自己開示のなかで、開示の情報量及び開示内容に相違があることが見出された。しかし、今回の研究では、このような自己開示の傾向の観察にのみ止まっているため、対話者間の関係性も考慮に入れ、自己開示の特徴にさらに踏み込んで検討する必要がある。特に、発話者の発話数や会話参加者のターン数などが、自己開示の頻度に影響を与えることも考えられる。そのため、さらにデータを検討し分析しなければならない。そして、相手の質問に対する答えとしての自己開示のように、会話の相手によって自己開示が促される場合もあるであろう。こういった、発話行為の種類と違いによる自己開示など、自己開示の出現の要因を明らかにするため、自己開示を行う側と受ける側とのインターアクションをより詳しくみていくような、質的な分析が必要不可欠である。

また、本研究では同年齢である女性の大学(院)生同士に限定して調査を行ったため、この結果から韓国人日本語学習者の自己開示の特徴を全て説明できるとはいえない。調査対象者の性別・年齢・社会的地位などの要因により、自己開示にいかなる特徴が表れるのかを明確にするため、調査対象を拡大して研究を進めていくことを今後の課題としたい。

注

- 1) 社会化(socialization)とは、個人が他の人々や集団との相互交渉を通して、自己の所属する社会にふさわしい行動様式や知識、経験を習得し、内面化していく全過程を指す概念である。(『改訂新版 社会心理学用語辞典』1995:119)
- 2) 自己開示(self-disclosure)という用語は、臨床心理学者である Jourard によって初めて用いられた。Jourard(1971)は自己開示について、自分自身をあらわにする行為であり、他人が知覚し得るように自身を示す行為であると述べている。

- 3) フォローアップ・インタビューの質問の一部と回答を資料として掲載する。
- 4) 会話の文字化記号は次の通りである。ー：長音，#：聞き取り不能，/：自己開示の単位分割点，【 】：自己開示の分類項目，アルファベット：調査対象者のプライバシーの保護のために用いる記号
- 5) カテゴリー分類基準の一部を以下に示す。
「大学生活」：調査対象者の大学生活における感想，「生活」：家賃・ライフスタイルなどの調査対象者の生活全般に関すること，「差し入れ」：調査時筆者が用意した差し入れについての感想，「日程」：調査対象者の実験当日の調査前後の予定
- 6) KK と KJ のフォローアップ・インタビューは韓国語で行った。本論では日本語に訳したものを示す。

参考文献

- 任 榮哲(2006)「韓国人とのコミュニケーション」真田信治(監修)・任 榮哲(編)『韓国人による日本社会言語学研究』おうふう，pp.7-19.
- 榎本博明(1997)『自己開示の心理学的研究』北大路書房
- 小川一夫(1995)『改訂新版 社会心理学用語辞典』北大路書房
- 奥山洋子(2005)「韓日大学生の初対面の話題選択と時間帯における比較分析－女子大学生間と男女合計間を中心に－」『人文科学研究』第11輯，同徳女子大学校，pp.69-81.
- サウクエン ファン(2006)「接触場面のタイポロジーと接触場面研究の課題」国立国語研究所(編)『日本語教育の新たな文脈－学習環境，接触場面，コミュニケーションの多様性－』アルク，pp.120-141.
- 西郡仁朗(1997)「外国人と日本人の初対面会話の分析－数量的に見た特徴と印象の形成について－」平成7年～平成8年度文部省科学研究費－基盤研究(C)(2)－研究成果報告書『日本人の談話行動のスキプト・ストラテジーの研究とマルチメディア教材の試作』<<http://japanese.human.metro-u.ac.jp/kokubun/mic-J/houkokusho/inshou.html>> (2007年5月10日)
- 西田 司(1998)『異文化の人間関係』多賀出版
- 三牧陽子(1999)「初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー－大学生会話の分析－」『日本語教育』103号，pp.49-58.
- 渡辺吉鎔・鈴木孝夫(1984)『朝鮮語のすすめ』講談社現代新書
- Berger, C. R., Gardner, R. R., Clatterbuck, G. W., & Schulman, L. S.

(1976) “Perceptions of information sequencing in relationship development.” *Human Communication Research*, 3(1), 29-46.
 Jourard, S. M. (1971) *Self-disclosure: an experimental analysis of the transparent self*. New York; Wiley-Interscience.

【資料】：フォローアップ・インタビューの質問と回答（一部のみ掲載）

Q1：初対面の相手と話すとき、相手が初対面であることを意識して話すか。

〔（ ）は調査対象者の全体人数、以下の質問においても同様〕

| 調査対象者 回答内容 | 母語場面 | | 接触場面 | |
|---------------|--------|--------|--------|-------|
| | JJ(16) | KK(16) | JJk(8) | KJ(8) |
| 常に意識する | 14 | — | 6 | — |
| 時には意識する | 2 | 3 | 2 | 1 |
| 意識しない | — | 13 | — | 7 |

Q2：初対面の相手に自分のことを話すときの会話スタイルについて。

| 調査対象者 回答内容 | 母語場面 | | 接触場面 | |
|---------------------------------|--------|--------|--------|-------|
| | JJ(16) | KK(16) | JJk(8) | KJ(8) |
| 聞かれない限り、あまり自分から進んで話さない | 6 | — | 4 | — |
| 基本情報は自分から話せるが、プライベートなことはあまり話さない | 10 | 2 | 4 | 3 |
| プライベートなことまで話す | — | 14 | — | 5 |

Q3：初対面会話でプライバシーに関わる話題を取り上げることについて。

| 調査対象者 回答内容 | 母語場面 | | 接触場面 | |
|-----------------------------------|--------|--------|--------|-------|
| | JJ(16) | KK(16) | JJk(8) | KJ(8) |
| 相手への関心の表れであり、お互いの距離を縮める機会である | 6 | 13 | 3 | 6 |
| 相手の領域を侵害する行為になりうるため、なるべく触れないほうが良い | 10 | 3 | 5 | 2 |

Q4：調査時、相手が日本語学習者であることを意識したか。

| 調査対象者 回答内容 | JJk(8) |
|------------------------------|--------|
| 相手が外国人であるために、こっちが会話をリードすることを | 1 |

| | |
|---|---|
| 考えながら会話を進めた | |
| 日本語が上手だったので、特に会話上の問題はなかったが、日本語の会話であったため、会話の展開における責任は感じた | 6 |
| 特に意識しなかった | 1 |

Q5：調査時の会話展開についてどのように思ったか。

| 回答内容 | 調査対象者 | KJ(8) |
|------------------|-------|-------|
| 主に相手が会話をリードしてくれた | | 6 |
| お互いに会話を進めていった | | 2 |

Q6：初対面の相手と話すときの日韓の違いについて。[重複回答可能]

| 回答内容 | 調査対象者 | KJ(8) |
|------------------------------|-------|-------|
| 日本人は韓国人に比べ、プライベートなことをあまり話さない | | 8 |
| 日本人と韓国人が考えるプライベートな話題は違うと思う | | 8 |

(名古屋大学大学院国際言語文化研究科)